

困っている人たちの痛みに 寄り添う弁護士に

仙台正義法律事務所
弁護士

佐藤孝明

さん 創価大学法科大学院修了

一九七一年の開学以来、創価大学は、司法試験合格者二一九名、公認会計士試験合格者一九一名を輩出。教員採用試験では卒業生の一割にあたる五九〇〇名が合格し、「資格」に強い大学として高い評価を受けています。社会や人々に貢献する卒業生は、国内はもとより世界各国で活躍しています。



津波によって倒壊した家屋

創価大では、司法試験に合格した卒業生が後輩の面倒を見ることが伝統になっている。

「在学中、成績が伸びずスランプに陥ったことがありましたが、先輩から適切なアドバイスを受けて乗り越えることができました。創価大で良かったと思うのは、人と人のつながりや温もりを感じることができたことです」

弁護士になった今も、難しい案件を抱えたときなど、先輩の弁護士に意見を求める。「『英知を磨くは何のため』という創立者の言葉があります。今こそ、困っている人のため、被災地復興のために全力を尽くす。そういう思いで被災者や子どもたちの支援に取り組んでいます」

佐藤さんは真つすぐに前を向いて、そう語った。

今年三月一日、東日本大震災が発生した。佐藤孝明さんは、無料の出張法律相談などにも積極的に関わり、被災された方々からの相談に寄り添いながら丁寧に応じている。「津波ですべてを流された」「借金だけが残った」「どうすればよいか…。言葉を失うほどの困難な相談が次々に寄せられる。

原発事故で苦しむ故郷福島
の現状に胸を痛めながらも、今、自分にできる一つ一つの課題の解決に取り組む日々だ。杜の都・仙台。ケヤキが繁る青葉通りとプラタナス並木の晩翠通りに面した法律事務所が、佐藤さんの活動拠点である。

仙台弁護士会の刑事弁護委員会、子どもの権利委員会など五つの委員会で行う。特に関心を持っているのは、少年の刑事事件だという。「少年犯罪の背景には大抵、本人の心の問題が潜んでいま

す。私自身、多感な少年時代を過ごしていたので、少年犯罪の事件に接すると、無関心ではいられないのです」

中学生のころに起こった一四歳の少年による児童殺傷事件は、将来、問題を抱える少年を援助する仕事に就きたいと考えるきっかけになった。そして高校時代には、法曹への道をはっきり意識した。

母親は、自分と兄と妹の三人の子を育てるため、三つのパートを掛け持ちして家計を

仙台高等裁判所の前で

支えていた。そんな母親に恩返ししたい気持ちもあった。

郷里の福島高校を卒業後、東北大学法学部に入學。四年後、さらに創価大学法科大学院へ進む。

「創価大を選んだのは、奨学金制度が充実していること、自習室などが完備していること、担当教員の親身な指導が受けられることが魅力だったからです。一日一〇時間の勉強に専念することができました」

創価大学

創価女子短期大学

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215 http://www.soka.ac.jp/



Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ 25

創価大学の創立者・池田大作先生は、平和と人権をテーマに、トインビー博士をはじめ、ノーベル賞受賞者のポーリング博士やマータイ博士など世界の学識者との対話を半世紀以上続けてきた。1975年には、経済至上主義の現代文明に警鐘を鳴らし、

『成長の限界』レポートで有名なローマクラブ創設者のアウレリオ・ベッチェイ博士と会見(写真)。以後、約10年間に5度にわたる対話を重ね、人類が直面する諸問題を論じた。この対話は、『二十一世紀への警鐘』(84年)として出版されている。



さとう・たかき／一九八四年福島県生まれ。二〇〇二年福島県立福島高等学校卒業。〇七年東北大学法学部卒業。〇九年創価大学法科大学院修了。新司法試験合格。一〇年司法修習修了、仙台正義法律事務所に入所。仙台弁護士会で、刑事弁護委員会、子どもの権利委員会、貧困問題対策本部など五つの委員会に所属。